

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-13	高等学校	公民科	現代社会	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	現社 322	高等学校 改訂版 新現代社会		

1. 編修の趣旨及び留意点

現代社会の基本的な問題について主体的に考察し、公正に判断できる良識ある公民としての必要な能力や態度を育てることをねらいとした。そのために、現代社会の諸制度・諸事象などを、広い視野に立ってわかりやすく解説した。また、現代社会のあり方を考察する基盤を理解するとともに、現代社会に高い関心や問題意識をもち、課題解決に向けて主体的に取り組むことができるよう留意した。

2. 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。

1. 倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会などの学習項目を分野別に構成し、生徒の立場から平易でわかりやすい本文記述になるよう努めた。その際、身近で具体的な事柄と結びつけて理解でき、考察が深められるよう配慮した。
2. 幅広い知識を身につけさせるため、本文はできるだけ具体例を示しながら丁寧に述べ、重要語句については側注を付して理解しやすくした。本文の理解を助ける図・表・写真も豊富に取り入れ、対応関係をわかりやすくするため、該当する番号を本文中に示した。また、各学習項目を相互に関連づけて理解し、学習効果をより高めるため、参照ページを丁寧に示した。
3. 現代社会の諸問題を考察する基盤として「幸福・正義・公正」などについて理解できるように、第1編では具体的な事例を用いて解説した。第2編および第3編では、「幸福・正義・公正」の枠組みを使って考察できる課題を設定することで、現代に生きる人間としてのあり方・生き方への理解を深め、主体的に考察する態度が身につくよう配慮した。
4. 各章の導入には、身近な社会・生活環境に見られる事象を学習項目に沿って取り上げ、スムーズな学習への取り組みに配慮するとともに、学習内容の構造図を描くことで、学習項目全体を把握しやすくし、内容の理解を深めやすくする工夫をおこなった。
5. 第1・2編で随時、特集ページ「FILE」を設け、時事的な題材の教材化や考えを深めたい内容を取り上げ、生徒が問題意識をもって学習に取り組めるように配慮した。また、適宜、会話形式や図表を取り入れることにより、学習への興味・関心を喚起するようにも配慮した。
6. 第1・2編で随時、特集ページ「ゼミナール」を設け、現代社会のしくみを丁寧に解説する内容や、法教育や金融教育・主権者教育について本文記述を補完する内容を取り上げ、現代に生きる公民としての資質を身につけられるようにした。また、適宜、会話形式や図表を取り入れることにより、学習への興味・関心を喚起するようにも配慮した。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1編 私たちの生きる社会	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会のあり方を考察するための枠組みとなる「幸福・正義・公正」の概念を巻頭特集で理解した上で、各単元の「幸福・正義・公正」の観点から考える課題を通じて真理を求める態度を身につけられるように配慮した(第1号)。 ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命倫理、高度情報社会といった現代社会における諸課題を取り上げ、これらの課題解決に向け、さまざまな視点から考察できるように配慮した(第4号)。 	p. 1, p.11, 16, 18, 22 p. 4 ~ 25
第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題として、自立とアイデンティティの確立、社会参画、インターンシップと職業選択、生きがいとキャリアデザインなどを扱い、職業観・勤労観が身につくよう配慮した(第2号)。 ・男女共同参画社会の重要性について丁寧に取り上げ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した(第3号)。 	p.28 ~ 31, 36 ~ 39 p.37

<p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りや年中行事などの生活の中にある伝統文化や伝統的な考え方を取り上げ、伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した。また、あわせて異文化理解の重要性についても取り上げ、それぞれの固有の文化を尊重する態度が養えるよう配慮した（第5号）。 	<p>p.32～35</p>
<p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第2章 個人の尊重と法の支配 第3章 現代の民主政治と政治参加の意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1編で学習した「幸福・正義・公正」の考え方をを用いて考察させる課題を随所に設けた。幅広い知識と教養を身につけるために、現代社会に対する関心を高め、主体的に考察することの大切さを自覚させるようにした（第1号）。 ・日本国憲法第13条「個人の尊重」や第27条「勤労権」を理解させるとともに、新しい人権として「自己決定権」を丁寧に扱うことで、個人の価値の尊重や勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。 ・法や規範の意義や役割、司法制度のあり方について丁寧に取り上げ、主体的に社会形成に参画するための良識ある公民として必要な能力と態度を養えるようにした（第3号）。 ・日本国憲法の諸条項は丁寧に扱い、基本的人権と公共の福祉のかかわりや具体的な法整備などの学習を通じて、男女がともに主体的に社会参画する態度を養えるよう留意した（第3号）。 ・主権者として政治に対する関心を高め、主体的に社会の形成に参画すべきことを説いた（第3号）。 	<p>p.49 p.63, 64～65 p.40～41, 44～45, 72～75 p.40～41, 58～67 p.63, 77, 78～82</p>
<p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第4章 国際政治の動向と日本の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1編で学習した「幸福・正義・公正」の考え方をを用いて考察させる課題を随所に設けた。幅広い知識と教養を身につけるために、現代社会に対する関心を高め、主体的に考察することの大切さを自覚させるようにした（第1号）。 ・国際社会における日本の果たすべき役割や日本人の生き方について考察できるようにした。特に、国際社会で活躍する日本人を取り上げた資料を通じてキャリアデザインについて考えさせ、職業観・勤労観が身につくよう配慮した（第2, 5号）。 ・国際紛争の諸要因や紛争・対立の事例、国際紛争の解決に向けた取り組みを丁寧に取り上げるとともに、人種・民族問題は基本的人権にかかわる宗教や生き方の問題であることに触れた。国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした（第3号）。 	<p>p.101 p.85, 100～101 p.92～93, 96～97</p>
<p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第5章 現代の経済社会と私たちの生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1編で学習した「幸福・正義・公正」の考え方をを用いて考察させる課題を随所に設けた。幅広い知識と教養を身につけるために、現代社会に対する関心を高め、主体的に考察することの大切さを自覚させるようにした（第1号）。 ・労働基本権や労働三法などの労働法制を丁寧に取り上げるとともに、非正規雇用の増加や女性の労働環境など、今日の労働をめぐる諸問題を深く理解できるようにすることで、個人の価値の尊重や男女の平等、職業および勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2, 3号）。 ・消費者問題について丁寧に取り上げ、契約を履行することの重要性や契約によって生じるさまざまな責任について理解できるようにした。また、消費者保護の重要性を扱うだけでなく、消費者基本法などの法整備についても取り上げ、消費者の権利の尊重と消費者の自主および自律の精神を養えるようにした（第2, 3号）。 ・公害や地球環境問題を通じて、環境保全のための世界的な行動や持続可能な社会を形成する必要性を説いた（第4号）。 	<p>p.122, 129, 146 p.129, 136～139 p.142～143 p.140～141</p>

<p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第5章 現代の経済社会と私たちの生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は利潤の追求だけでなく、企業統治の実現や社会的責任を積極的に果たし、環境保全や地域社会における慈善事業、芸術・文化への支援活動などをおこなうことも求められていることを示すことで、職業生活においても、正義と責任を重んじ、環境保全や文化の尊重などに積極的に関与する態度を養えるようにした(第3, 4, 5号)。 	<p>p.108 ~ 111</p>
<p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第6章 国際経済の動向と日本の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域的経済統合が進展した背景や影響、南北問題などの国際社会における貧困や格差問題など、経済における相互依存関係の深まりについて、幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮した(第1号)。 ・グローバル化する経済について丁寧に取り上げた上で、ODAなど日本が国際社会で果たす役割が大きいことを理解できるようにすることで、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した(第5号)。 	<p>p.148 ~ 167 p.157 ~ 167</p>
<p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第7章 民主社会に生きる倫理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1編で学習した「幸福・正義・公正」の考え方をを用いて考察させる課題を随所に設けた。幅広い知識と教養を身につけるために、現代社会に対する関心を高め、主体的に考察することの大切さを自覚させるようにした(第1号)。 ・民主社会に生きる倫理について、個人の価値を尊重しつつ、社会契約説や功利主義、正義論などを丁寧に取り上げ、民主社会においては、相互信頼と相互尊重の精神をもって、他者に対して公正な配慮をおこなう態度を養えるようにした(第2, 3号)。 ・シュヴァイツァーなどの考え方を通して、生命に対する尊重および畏敬の精神をあらゆる生活の中に生かしていくことが、人々が互いに協力して社会生活をおこなっていく上での基本となっていることについて理解を深めることができるよう配慮した(第4号)。 ・日本の伝統的なものの考え方について丁寧に取り上げ、伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について考察できるように配慮した(第5号)。 	<p>p.169, 177, 181 p.176 ~ 177, 181 p.178 ~ 180 p.172 ~ 173</p>
<p>第3編 ともに生きる社会をめざして</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・2編で学習した「幸福・正義・公正」の考え方をを用いて考察させる「ケーススタディ」を中心に展開した。持続可能な社会の形成に参画するという観点から、「ケーススタディ」を通じて、幅広い知識と教養を身につけるとともに、現代に生きる人間としてのあり方や生き方について考察できるように配慮した(第1号)。 ・社会保障と税負担の問題、東日本大震災からの復興に関する問題、人口問題といった課題から、自己の生き方と他者や社会とのかかわりについて考察させ、主体的に社会形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした(第2, 3, 4, 5号)。 	<p>p.182 ~ 187 p.181 ~ 187</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」などの規定を踏まえ、私たちの暮らす社会におけるさまざまな法令を実感できるよう、巻末資料として日本国憲法や労働基準法をはじめとする各種法令を紹介した。
- ・読みにくい漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身につくよう配慮した。
- ・課題探究学習について、学習の手順の一例を「スキルアップ」としてまとめ、学び方が身につくよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-13	高等学校	公民科	現代社会	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	現社 322	高等学校 改訂版 新現代社会		

<p>1. 編修上特に意を用いた点や特色</p> <p>1. 各学習項目を分野別にまとめることによって、現代社会をさまざまな角度から体系的に学習できるように配慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球上のさまざまな課題，青年期，法，政治，国際政治，経済，国際経済，倫理と，学習項目の漏れをなくし，体系的に学習できるように配慮した。また，それぞれが相互に関連していることがわかるよう，参照ページを丁寧に入れた。 ・日本が抱える領土問題について項目立てで取り上げ，国際平和の維持と安定のためにも，平和的な解決に向けて，広い視野から継続的に努力する態度が必要であることを認識できるように配慮した。 ・本文ページには，学習項目をより深く掘り下げて考察できる特集ページ「FILE」，現代社会のしくみをわかりやすく解説した特集ページ「ゼミナール」学習項目に関連した内容で興味を喚起するコラムの「TOPIC」や「information」を設けた。体系的な学習を補助するとともに学習意欲を高められるよう配慮した。 <p>2. 主体的・能動的に学習活動がおこなえるよう導入を工夫し，本文には作業的な要素も設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習項目の冒頭ページに，生徒の身近に見られる社会事象を学習項目に関連して取り上げたビジュアルな「導入特集」を設けた。また，「導入特集」は学習項目の構造図を描いており，よりスムーズで効率的な学習活動が図れるよう配慮した。 ・図や写真で現代社会を見る特集ページ「VIEW」を設け，学習項目への興味を喚起するよう配慮した。 ・本文の各節の冒頭には「ポイント」を設定し，生徒が問題意識をもって主体的に学習に取り組めるよう配慮した。 ・本文に関連して作業やクイズを「work」として設定し，学習活動の流れのなかで能動的に取り組めるよう配慮した。 <p>3. 写真や図版を豊富に掲載し，本文とのつながりを意識的に持たせ，効果的な学習ができるよう配慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべてのページに写真と図版を掲載し，ビジュアルな紙面を通して学習ができるよう配慮した。 ・図版は本文の内容をわかりやすく示した図解や，本文を深く理解するための統計などを設け，写真は興味・関心の喚起や問題意識の形成に役立つようにするなど，利用価値の高いものとなるよう配慮した。 ・本文の中に参照すべき図や写真の番号を示すことで，より効果的な学習活動をおこなえるよう配慮した。 <p>4. 言語活動を充実させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の「幸福・正義・公正」を用いて考えるコーナーや第3編の課題探究学習では，自分の考えをまとめたり，グループで話し合ったりする作業内容を入れ，さまざまな作業学習を通して言語活動に主体的に取り組めるよう配慮した。 ・「スキルアップ」で情報の収集や活用，発表などの方法を示し，さまざまな言語活動に取り組めるよう配慮した。 <p>5. 社会のあり方を考察する「幸福・正義・公正」の枠組みを理解し，課題解決のための思考力や判断力などを育めるよう配慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1編では，社会の諸問題に対する実際の解決方法を，「幸福・正義・公正」の観点から捉え直し，「幸福・正義・公正」の枠組みを理解することを重視した。 ・第2編以降は，第1編で習得した「幸福・正義・公正」の枠組みを使って現代社会の諸課題について主体的に考察する態度を養えるよう留意した。
<p>2. 対照表</p>

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 私たちの生きる社会			
私たちの生きる地球		p.4～5	
1. 環境と私たちの生活			
地球環境のいま(1)		p.6～7	2
地球環境のいま(2)		p.8～9	
私たちの地球を守るために		p.10～13	
2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活	(1) - ア		
限りある資源		p.14～15	1
資源問題の解決をめざして		p.16～17	
3. 科学技術の発達と私たちの生命			
科学技術の発達と生命		p.18～19	1
生命倫理をめぐる問題		p.20～21	
4. 高度情報社会と私たちの生活			
情報の高度化の進展		p.22～23	1
高度情報社会の課題		p.24～25	
第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方			
第1章 青年期と自己の形成			
私たちの一日と青年期		p.26～27	1
青年期とは		p.28～29	
青年期を充実させるために	(2) - ア	p.30～31	1
伝統や文化とのかかわり		p.32～33	1
祭りと年中行事		p.34～35	
社会とのかかわり		p.36～37	1
私たちの生きがい		p.38～39	
第2章 個人の尊重と法の支配			
私たちの一生と法		p.40～41	1
個人と国家	(2) - イ	p.42～43	
法の支配	(2) - ウ	p.44～45	1
基本的人権の保障		p.46～47	1
世界の政治体制		p.48～49	1
第3章 現代の民主政治と政治参加の意義			
私たちの町と政治		p.50～51	1
日本国憲法の基本原理	(2) - イ	p.52～53	
平和主義と日本の安全保障	(2) - ウ	p.54～55	1
冷戦終結後の防衛問題		p.56～57	
平等に生きる権利		p.58～59	1
自由に生きる権利		p.60～61	1
豊かに生きる権利		p.62～63	1
新しい人権		p.64～65	1
基本的人権と公共の福祉	(2) - イ	p.66～67	
国会の運営と権限	(2) - ウ	p.68～69	1
内閣と行政の民主化		p.70～71	1
裁判所と人権保障		p.72～75	1
地方自治と住民の福祉		p.76～77	1
選挙制度の現状と課題		p.78～79	1
世論の形成と政治参加		p.80～83	1
第4章 国際政治の動向と日本の役割			
国際政治の動向と私たちにできること	(2) - オ	p.84～85	1
国家主権と国際法		p.86～87	
国際連合の役割と課題		p.88～89	1

第二次世界大戦後の国際社会		p.90～91	1
冷戦終結後の国際社会		p.92～93	1
核兵器の廃絶と国際平和		p.94～95	1
地域紛争と人種・民族問題		p.96～97	1
国境と領土問題		p.98～99	
日本の役割と私たちの生き方		p.100～101	1
第5章 現代の経済社会と私たちの生活			
私たちの町と経済		p.102～103	1
経済と私たちの生活		p.104～105	
経済体制の変容		p.106～107	1
現代の企業		p.108～111	1
市場のしくみ		p.112～115	1
国民所得と私たちの生活		p.116～117	1
景気変動と物価の動き		p.118～119	1
財政のしくみと税金		p.120～121	1
日本の財政の課題		p.122～123	
金融機関のはたらき	(2) - 工	p.124～125	1
戦後日本経済のあゆみ(1)		p.126～127	1
戦後日本経済のあゆみ(2)		p.128～129	1
技術革新の進展と産業構造の変化		p.130～131	1
中小企業の現状と役割		p.132～133	
食の安全とこれからの日本の農業		p.134～135	1
雇用と労働問題		p.136～137	1
労働環境の整備		p.138～139	1
公害の防止から環境保全へ		p.140～141	1
消費者問題と消費者主権		p.142～143	1
社会保障と福祉社会		p.144～145	1
これからの社会保障		p.146～147	
第6章 国際経済の動向と日本の役割			
国際経済の動向と私たちにできること		p.148～149	1
国際分業と貿易		p.150～151	
国際経済体制のあゆみ		p.152～153	1
国際収支と為替相場	(2) - オ	p.154～157	1
国際経済の動向		p.158～159	1
進む地域的経済統合		p.160～163	1
発展途上国の経済と南北問題		p.164～165	1
国際社会のこれから		p.166～167	
第7章 民主社会に生きる倫理			
私たちの悩みと倫理		p.168～169	1
豊かな人生を求めて		p.170～171	
日本の伝統的な考え方	(2) - イ	p.172～173	1
近代の西洋社会に見られる考え方	(2) - ウ	p.174～175	1
近代市民社会から大衆社会へ		p.176～177	
他者とともに生きる		p.178～179	1
豊かな社会の実現に向けて		p.180～181	1
第3編 とともに生きる社会をめざして			
ケーススタディ 社会保障と消費税		p.182～183	1
震災から復興への道のり	(3)	p.184～185	1
人口問題と私たちの未来		p.186～187	1
スキルアップ		p.188～195	1
		計	64